

チェックテスト 解答

3章 基本動作

1 基本動作 (p.101)

①

生活する地域の文化、年齢、性別、生育歴、習慣、価値観など

②

1日のなかで睡眠と覚醒を繰り返す（多様性睡眠）

③

おおむね4～6歳までに獲得される

④

発達段階に応じて変化し、乳児期から学童期は遊びが多くを占める。青年期以降には遊び・余暇活動が減少し、仕事の占める割合が増加する。老年期には生活維持関連活動と余暇活動が増加し、仕事の割合は減少する。

2 起居移動動作 (p.106)

①

体幹の伸展回旋で行うパターンと体幹の屈曲回旋で行うパターン

②

側臥位は背臥位に比べて支持基底面が狭く、姿勢安定のために背筋の緊張が高まり体幹を固定することで、起き上がり動作を阻害する

③

長座位から四つ這い位→上肢で支持したまま片膝立ち→もう一側の下肢で立ち上がる

3 食事活動 (p.115)

①

頸部が軽度屈曲し、膝・股関節90°屈曲位で骨盤はわずかに前傾位、体幹は正中位を

保ち、安定が得られる姿勢

②

到達把持動作で物を把持するまでに、把持する物の形状や材質などの特徴に応じて手指が形態変化する現象

③

先行期（認知期）：食物を認知し、口へ運ぶまで

準備期：食物を口に取り込み、咀嚼、食塊形成するまで

口腔期：咀嚼された食物を咽頭に送り込むまで

咽頭期：食塊が咽頭に入り、食道に達するまで

食道期：食塊が咽頭を通過し、食道の蠕動運動によって胃へ運ばれるまで

④

底に滑り止めのついた食器や滑り止めシート、お盆、すくいやすい皿など

⑤

PSB や BFO

⑥

間接訓練と直接訓練

4 排泄活動 (p.121)

①

排尿・排便管理、起居移動動作、更衣や清拭などを行う上肢・下肢・体幹機能と感覚、それに伴う認知・判断力

②

便座を高くする。補高便座・昇降便座を利用する

③

尿意・便意を感じる

トイレや便器が認識できる

トイレまで行き、ドアを開閉する

衣類を下ろす

便器を整え、上手に使う

排尿・排便をする

お尻を拭いたり、トイレの水を流す

衣類を上げる

部屋に戻る

④

日常の排泄回数や時間間隔などのパターンを把握し、2～3時間に1回トイレに誘導する。またポータブルトイレや尿器，差し込み便器，自動排泄処理装置を用いる

⑤

安楽尿器（しびん），差し込み便器，自動排泄処理装置など

5 入浴活動 (p.125)

①

歩行が不安定な場合は手すりを設置するなどの転倒防止対策をとり，片足立ちが不安定となりやすい片麻痺者や高齢者では，座位でまたぐ方法に切り替える

②

ループ付きタオル，吸盤付きブラシ

③

長柄ボディブラシ

④

浴槽の高さにそろえたシャワー椅子やバスボード

6 更衣活動 (p.131)

①

体温調節や外力からの身体保護，自己表現の手段，社会を意識した活動である。周りに合わせた衣服により仲間意識をもつ。更衣によって気分が変わり活動性が向上することもある

②

適度に伸縮性のある，やや大きめの衣服

③

患側から袖を通す。袖を患側の肩まで通して上衣を背中側に回し，襟を持ってもう一方の袖を健側に持ってきて健側上肢を袖に通す

④

リーチャー

⑤

ボタンエイド

⑥

ソックスエイド

7 整容活動 (p.139)

①

手洗い，洗顔，歯磨き，整髪，爪切り，ひげ剃り，化粧など

②

洗面台の下に下肢が入るスペースがあるもの

③

柄を太くする，ユニバーサルカフを用いる

④

長柄くし，長柄ブラシ

8 コミュニケーション (p.147)

①

筆談，Yea-No のサイン，50音コミュニケーションボードの利用など

②

スティックやタイピングエイドなど

③

透明文字盤を使い，視線で意思表示する

④

意思伝達装置

⑤

簡単な言葉を用いた短い文で，ゆっくり・はっきりと話しながら，ジェスチャーを使うなど